

令和3年度 第10号 (205号)

# 立ろうだより



令和4年1月11日 発行  
東京都立立川ろう学校  
校長 村野 一臣  
〒190-0003  
東京都立川市栄町1-15-7  
電話042-523-1358  
ファクシ042-523-6421



あけましておめでとうございます



校長 むらの 村野 かずおみ 一臣

2022（令和4）年がスタートしました。

皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

2022年は、本校最後の年となります。後3か月になりますが、都立立川学園の開設に向けて円滑に引き継ぎ、安心できる環境を作ることに努めていきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は「寅年」です。2学期末に幼稚部3年生が「十二支のおはなし」の絵本を題材にした「げきごっこ」をしていました。大人になると干支の順序を「子丑寅辰巳・・・」と記憶したとおり確認することはありますが、干支の話はうろ覚えになっていくものです。改めて、「どうしてねずみが一番なのか、戌年と申年に酉年が入っているのか、猫はどうして入っていないのか」等、背景知識を聞くとすっくと頭の中が整理される思いです。現在は、スマートフォンですぐに調べられますので、大人も豆知識を調べて、お子さんと話をする素材になると良いです。

言葉は、大人が使っているのをなんとなく覚えて、学習や本等を通して、こんな意味だったのかと分かった時に初めてきちんと理解し使えるようになっていきます。私は小学生の時に、頭に??となる言葉を今でも鮮明に覚えています。親がよく使っていた言葉です。一つは、「コンプレックスをもつ」、もう一つは、「親方日の丸」です。小学生ですので、コンプレックスというものはどんなもので、大人はもっている、子どもはもっていない、大人になるとこれをもつらしいが大変だ、という印象です。また、親方日の丸はさっぱり意味がわかりませんでした。ろう学校では、分かる言葉に変えて話をする事が多くあります。通じ合える事が一番大切ですが、大人が意図的に言葉を広げたり深めたりすることも大切なポイントです。

話は、もう一度寅年に戻ります。寅年のはじまりでは、トラにまつわる話ができると思います。今年は、36年に一度の「五黄（ごう）の寅」となっています。「五黄の寅」に生まれた人は、強運と強いパワーの持ち主なのです。特に女性は、社会で活躍する人が多いとされています。36歳、72歳の芸能人の話をして話題が広がります。（ちなみに石原さとみ・北川景子・杏・イモトアヤコ）虎に関係したことわざでは、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」「虎の威を借る狐」「苛政は虎よりも猛なり」「虎視眈々」「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」「千里の野に虎を放つ」「張り子の虎」「虎の巻」「竹に虎」「虎に翼」「虎の子」等です。お年玉をもらったばかりです。「虎の子」のお年玉として大切にしてほしいです。中学生・高校生には、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」等の話がいいです。（始業式に話をします）勇気を出して何かに挑戦することで大きな成果が得られる年にしてほしいです。実りのある一年になることを祈っています。

